

東日本大震災関連報告会

去る六月四日、開山御神火大祭翌日に、東日本大震災支援対策事務所長（武山孝行教議員）からの報告と今後の支援、また本部事業に関する検討のため「臨時連絡会」が開催されました。

武山所長より、被災の状況と教内各方面からの支援の御礼、また今後の復旧復興への諸問題について報告がなされ、多くの出席者からも質疑が出されるなど、意義ある会議となりました。また、管長殿から、震災発生後各教区より本部へ寄せられた支援金と、本部の震災復興補助金が武山所長に手渡されると、武山所長は「確かに御預かりし、被災教会・教師の方へ役立てさせて頂きます」と深い感謝の礼を述べ、管長殿と強く握手を交わされました。

その後、被災教区の各教会・教師へ支援金が届けられると受け取った教師から本部へ続々と喜びと御礼の連絡が寄

せられていました。まだまだ復興への道のりは長いものとなります。今後も被災地へのご支援とご協力を願います。



宮城東北の祈り

〜震災支援対策事務所より
東日本大震災支援対策事務所所長

武山孝行

早くも三月の大震災から半年が経ちました。これまで大教庁、扶桑会、全国の本教各教会をはじめ皆様より温情溢れる沢山の貴い支援物質、清浄なる支援金をお送りいただきました。おかげ様で受け取られた方から、心から感謝の言葉をいただいております。

皆様のお心に厚く御礼申し上げます。

被災地では、今もなお忘れる事の出来ない大地震大津波が、繰り返してテレビラジオ等で放送されています。余震が来ると、また、人が集まると、あの日の話が出ます。人々の心と身体が癒えるのには、まだまだ月日がかかりそうです。八月末現在、宮城県太平洋沿岸部で被災し避難所生活を送って来られた約九割の人々が、応急仮設住宅へ移り住み、いろいろと不自由ながらも少しずつ新しい土地での生活に慣れて来ているようです。全国から、世界中から日本赤十字社に集められた支援義援金は、今日現在、市町村を通して約七割の人達に支給、受け取りが済んでいるようです。しかし、三割の人達が支援義援金を未だに受け取ることが出来ず、大変な生活を強いられているのが現実です。

被災地では、復興と復旧に向けて少しずつですが動き出し

ております。長い、長い道のりです。どうか引き続き皆様の温かいご支援ご協力をお願い申し上げます。

宮城県ボランティア

扶桑教三神教会

副教会長 畑野和裕

私は、東日本大震災から三ヶ月余り経った六月に被災地に入りました。メディアを通してしか見ていなかったそこには想像を遥かに超える「現実」があった。「言葉にならない」テレビで目にしていた復興の兆しとは裏腹にまだまだとても厳しい現実だ。

津波の被害地域の惨状は勿論だが、私が強く感じたのは、この現実を直面して百日以上向き合っている被災された方々の生活だ。避難所には段ボールで所狭しに仕切られた僅かなスペースに子供からお年寄りまでが生活を共にしている。そこにプライバシーというものは無い。家や家族を失ったうえにまだまだ続く試練。

とても「頑張つて」では片付けられない。私たちが普通に生活できると言う事に改めて有難さを感じる。

半年経った現在、被災地域の復興を願うと共に被災された方々の「心のケア」が最も重なる復興になっていくのではないだろうか。形で見える復興は勿論、見えない部分の復興を私たち宗教家が大神様を通して力にならなくてはいけない。今こそ「見直し聞き直し」信仰を問わずに、日本中の人が心一つに東北の復興を願う「他の為に」行動すること。東北地方だけに留まらず日本全体の未来を大きくする偉大な力になるのではないか。私も毎朝、教会御神前にて微力ながらも復興の祈りをあげさせて頂いている。

「扶桑」発行元

扶桑教大教庁

〒156-0043

東京都世田谷区松原

一七七一二十

電話 03(3321)0238